

で、高見大司教さまは結婚と家庭の大切さをあらためて取り上げた。わたしたちもその問題意識とそれに取り組もうとする決意を共有したいものだ。▲互いのすれ違いや困難な子育てに悩む夫婦、愛されることを渴望している子ども、仕事や学業のために地元を離れる若い世代が直面している孤独、高齢者世帯の生活不安、等々。それらの具体的な課題に寄り添う教会共同体でありたい。何よりも自分が神さまと周りの人々に尊重されていることの実感が必要なのだ。▲もうすぐ小教区での黙想会の時期が来る。今年、家庭の霊性について重点的に黙想されてはいかがだろうか。(S)

「大きくなあれ」永井千本桜2世 平和へのメッセンジャーとして 純心学園、山里小、雲南市に植樹

長崎原爆で被爆し、重
症を負いながら被爆者救
護に尽くした医師、永井
隆博士（1908～51
年）が、荒野と化した長
崎・浦上地区を「花咲く
丘」にとの願いを込めて
植えた「永井千本桜」。
約1200本あった桜は
現在数十本が残るのみ。
永井博士を顕彰する「長



桜の祝福



トを立ち上げ、浦上教会
に残る永井桜の枝を切り
後、同校の正門横に「永
井千本桜2世」が初め
て植えられ
た。博士の
孫で長崎市
永井隆記念
館館長の永
井徳三郎さ
んは「祖父
も喜んでい
ると思う。

己の会会員12人を含め約
80人が参加、児童らが「大
きくなあれ」などと言葉
を掛けながら、苗木3本
を植えた（写真）。雲南
市は残りの27本を市内
全小中学校にも植える。
同小6年の小林昂貴君
（12）は「苗木を育てる
ことで、博士の平和への
思いを受け継ぎ、つない
でいきたい」と語った。
さらに12月22日には長
崎市立山里小でも児童ら
約100人が参加し、5
本植樹した。

取って接ぎ木で再生さ
せ、古賀植木センターで
専門家が育苗した。
2世の成長は順調で、
昨年12月17日、博士の意
思を継いだ長崎如己の会
会員や純心学園（長崎市
文教町）の生徒・職員ら
約150人が参加、下窄
英知師（カトリックセン
ター）による桜の祝福の

また、故永井博士の平
和への願いを語り継ごう
と12月20日、永井博士の
故郷・雲南市に「永井千
本桜」の苗木30本を贈っ
た。この日、博士の母校・
雲南市立飯石小学校で行
われた植樹式には長崎如

己の会会員12人を含め約
80人が参加、児童らが「大
きくなあれ」などと言葉
を掛けながら、苗木3本
を植えた（写真）。雲南
市は残りの27本を市内
全小中学校にも植える。
同小6年の小林昂貴君
（12）は「苗木を育てる
ことで、博士の平和への
思いを受け継ぎ、つない
でいきたい」と語った。
さらに12月22日には長
崎市立山里小でも児童ら
約100人が参加し、5
本植樹した。



八王子の
なかま展

東京純心大学（八王子
市）を卒業した仲間がい
つの日か、一緒に作品展
を―と話していたことが
実現。絵本、日本画、ジュ
エリーなどの作品を展示
した。絵本を出品した濱
口真理子さんは「会場は
経営者今村勝己氏夫人が



第1回「八王子のなか
ま展」写真」が昨年12
月20日から1月22日まで
長崎市大橋町「ギヤラ
リーカフェ T u t t i
」で開かれた。

カトリックセンター
内の作業を手伝う外国
人の姿が時々来訪者の
目に触れ「あの人、だ
れ」と尋ねる人も。日
本語を上手に操り、働
く仲間の評判もいい。
センターでは宿泊者
の部屋の清掃、サント
ス通り（レストラン）
の裏方もこなす。
1989年、共産主
義政権下のベトナムを

家族と共に脱出、19歳の
時フィリピンへ。父親（ベ
トナム軍のパイロット、
階級は中佐）はどこかに
拘束され拷問の末、亡く
なったという。母、姉2
人とも別れ別れになった
が、後に母と1人の姉は
米国居住。もう1人の姉
はベトナムで修道会に入
ったことが分かる。熱
心なカトリック家庭、張

さんは元神学生。
5年ほど前、不法入国
などの罪で名古屋入国者
収容所を経て大村の入国
管理センターへ移る。昨
年7月、司祭、修道女、牧
師などの支援で高見三明
大司教が身元引き受け人
となり、現在仮放免の身。
「アメリカに住む母との
会話（携帯電話）が一番の
楽しみです。『親孝行でき
る』

ない。怒ってください」と
話すと、母は『あなたの声
が聞けるだけでうれしい』
といつも甘い会話になり
ます」と頬をゆるませた。
張さんの居住について
は、顧問会議に諮られ滞
在許可が下りるまで、当
座の住まいとしてセン
ターの部屋を使うことを
許されている。正式に滞
在許可が下りると、就職

も可能という。
ミサは、センター内の
聖堂ですか、との質問
に「聖堂でミサにあず
かれますが、週2、3回
は日本語の説教が聴け
るので、浦上教会へ行っ
ています」手元には日
本の国語辞典、日中
中日辞典があった。
毎月、長崎原爆忌の
9日、平和記念像前で、
平和団体が座り込みを
しているが、休みがぶ
つかった日には、平和
への実現を願って参加
している。

巡回教会めぐり

浜脇小教区 五輪教会 旧教会と 並び建つ

奈留瀬戸に面した漁港
のわずかな土地に並び建
つ五輪教会と旧五輪教会
堂（国指定重要文化財）。
五輪教会は旧五輪教会堂
の老朽化により1985
年（昭和60）に建てられ
た座席数30ほどの教会
で、五島市内では最も新
しい。車は入れず、途中か
ら山道を歩くか船を利用
する方法がとられている。



旧五輪教会
五輪教会

五輪教会の信徒はその
大半が、明治元年に起きた
久賀島の半屋の窄の迫害
を耐え抜いた人々の末裔。
信徒たちは月2回のミサ
に、地元をはじめ近くの集

落や蔵小島から漁船など
で集まってくる。かつて
数十世帯あった信徒世帯
も過疎化の波に洗われ、
現在は五輪地区、蔵小島
あわせても10戸に満たな

い。しかし、信仰の灯火は
受け継がれ、ほとんどが漁
業に従事する信徒たちの、
信仰中心の生活は変わる
ことはない。特に教会そ
ばに住む2世帯の信徒は
聖体を安置している教会
を大切に守り、また世界遺
産候補の旧五輪教会堂を
訪ねる遠来の客を案内す
るなど、暮らしに根ざした
確かな信仰は神と人への
奉仕の姿にもうかがえる。
（福江教会広報・中村季子）

牢屋の窄 殉教記念教会 42人殉教

1868年（明治元年）、
久賀島内の信徒たちが捕
らえられ、残酷な責め苦を
受けた。後に五島崩れと
呼ばれ、五島における弾圧
のきつかけともなった出来
事である。12畳ほどの牢
に200人余が押し込め
られ、横にもなれず、排泄
もその場にしなければな
らないという惨状で、さら
に男女を問わず牢から引
き出され子どもまでも蔵



玉之浦教会の信徒の多く
は江戸時代末期に大村藩か
ら五島に移り住んだ潜伏キ
リシタンのうち、この地に再
移住した人やその子孫たち。
島山島の向小浦、浅切黒小
浦、蔵浦、玉之浦湾に面する人
江伝いの荒川、布浦、銭亀崎、
山之浦、一里鼻、笠神、イスズ

和59）、実際に牢屋があっ
た場所に2代目の現教会
が建設された。
ミサは月2回。教会内
は床のじゅうたんが色分
けされ牢の狭さが一目で
分かり、当時の彼らの苦
しみを物語っている。毎
年秋に、殉教者をたたえ
先祖の信仰に倣うため、
人々が集まり牢屋の窄殉
教祭が行われている。（福
江教会広報・中村季子）

井持浦小教区 玉之浦教会 集落から転居

ミ赤崎など小集落を形成し、
信仰をひそかに守っていた。
地元信徒の話では、信仰
が自由になってもこれらの
集落は町の中心地まで距
離が遠く、船渡しで不便な
生活だったという。島山島
では戦後、信徒たちのプラ
ジル移住をはじめ、昭和30

年ごろまでに相次いで転
出。30年代後半には入江伝
いの集落でも九州本土や福
江教会広報・中村季子）

江市（現五島市）への転出
が始まったが、町の中心地・
玉之浦地区に転居する信徒
も少なくなかった。玉之浦
では信徒宅の2階部分でミ
サがささげられていたが、
1962年（昭和37）同じ
場所に現教会が建てられ、
当時の下五島地区長・松下
佐吉師によって祝別された。
玉之浦教会は、切妻屋根
に玄関を付加した素朴な造

セルギウス・ベシエク修道士
（コンベンツアル聖フ
ランシスコ修道会）
で帰天した。103歳。
1907年、ポーランド
に生まれる。21歳で入会。
31年、24歳でコルベ神父を
慕って長崎市聖母の騎士
修道院に着任。5年間、聖
コルベと生活を共にした。
戦後は東京、兵庫、長崎な
どで建設と宣教に尽力。
63歳から聖母の騎士修道
院でルルドの係を94歳ま

が西町教会の信徒代表と
して活躍した当時の主任
司祭・川上進師によりさ
さげられた。また、告別式
は故人が教区信徒使徒職
評議会会長だったときの
総指導司祭・野下千年師
が司式し、野下師は故人
の教区への多大な貢献に
大司教区を代表して感謝
と慰霊の言葉を述べた。

ペトロ
吉野進さん
昨年12月18日長崎市内
の診療所で帰天。82歳。
1983～85年、教区
信徒使徒職評議会会長、



で務めた。聖コルベの愛
の語り部として活躍。生
涯、聖コルベから教えられ
たロザリオを熱心に唱え
た。98歳から病院で手厚
い看護を受けていた。著
書に「越えて来た道」「無
原罪の聖母」（聖母文庫）。
通夜は12月17日、告別式
は18日に本河内教会で行
われた。

創設100周年記念誌編集
委員・柿山信行

「祈りの長崎」に見る 被爆体験の捉え方を研究

磯野沙月さん(上智大学院)

長崎で被爆したカトリック信徒が被爆体験をどのように捉え、戦後65年が経った今、どのように考え、感じているのか。

東京の上智大学大学院総合人間科学研究科で学ぶ磯野沙月さん(23歳、福岡のカトリック信徒)は修



士論文研究のため、被爆体験や長崎の教会史に関する文献などを通して調査を続けている。昨年11月は長崎で3人のカトリック信徒の被爆者に話を聞いた。「皆さん真摯に対応してくださり、想像を絶する状況乗り越え、力を尽くして心を動かされました」と話す。

テレビや新聞、インター

マルコ1章17節

「わたしについて来なさい」

中学1年から親元を離れ生活することは、不安であり寂しいものです。

今、神学校で過ごしている学生たちはこのことを経験しています。わたしもそうでしたが、特に、新

入生として神学校に入

たてのころは、不安で寂

しくて、家族について大

事だ

な、家族についていいも

の

なと、一緒にいるときは

全く気付くことも考える

こともなかった家族とい

うものの大切さ、ありが

たさを感じるものではな

い

い

い



8月9日 平和を祈る

漠然と思った。大学の卒業論文では「カトリック信徒の日本人高齢者の信仰」をテーマにインタビューを重ね、長崎に脈々と受け継がれる信仰と、戦争体験者の「人生の豊かな語り」に魅せられ、研究を深めようと進学した。

「お一人お一人の気持ちを大切に、話を伺いたい」3月中旬から

再出発

「平和」とは何か。『平和』について考えないわけにはいきません。学生たちの関心は高まっていて、『平和とは何か』『どうすれば実現できるのか』として体験がなくても、『戦争体験者の語りを聞いて伝えていきたい』という希望が多く聞かれます。

幼いころから永井隆博士の本を読み、聖母被昇天のミサで熱心に祈る高年齢者の姿に、「怒りの広島、祈りの長崎」の「祈り」って何だろう?と

自立援助ホーム カムカムホーム

家庭的、経済的、人的事情などで家族と生活できない子供たちが児童養護施設で暮らしているが、入所は原則18歳まで。その後社会に出て自立を目指すものの、親や親戚といった親しく支えてもらえる身近な人がいない中で、現実的に立ち向かうのは困難を極める。幼児期に受けた心の



長崎市曙町

傷から対人関係をうまく築くことができず、就職しても続かない子もいる。そんな少年たちの受け皿が「自立援助ホーム」だ。

2010年4月、川井健蔵さん(写真、浦上教

い出会いとその中で築かれていくきずなは寂しさや喜びへと変えていくものなのです。

福音書には4人の漁師がキリストの弟子になる



みことばにふれて

野濱達也神父(長崎カトリック神学院)

会った人々と友となり、それこそ家族のような関係を築き上げていくことができるからです。新し

場面が描かれています。そこには船や父親すべてを残してキリストに従っていく弟子たちの姿がありました。漁師たちがすべてを捨ててキリス

トについていったとき、彼らに不安や寂しさはなかったのでしょうか。ひょっとしたら彼らのうちにも最初は寂しさや不安があったのかもしれま

せん。しかし、それらをすべて喜びへと変えていったのはキリストでした。キリストと出会い、「わたしについてきなさい」というこの言葉に聞き従い、信頼していく中で、彼らはキリストとの真のきずなを築いていきます。彼らにとってキリストとの

生

城山教会ニュース 発行1000号

葉、クリスマススの写真、聖マリア学院小・中児童生徒募集。



城山教会(主任マイケル・ヒルデン師)ニュースは、1963年(昭和38)10月13日発行され、2011年1月号で1000号を迎えた。毎月1回発行(8月休刊)する紙面は通常4ページ、1000号はカラー6ページで製作している。

1面トップは主任司祭の「一歩先に進みましょう」と新年あいさつ、今月の聖書愛読マラソンの福音書紹介。新成人の言

市民クリスマスページェント 教会巡礼・馬小屋さるく アジエンダNOVAながさき

長崎の文化を考える会・アジエンダNOVAながさき(代表役員・野下千年企画部長・里重光事務局長、林田慎一郎事務局・広報担当)は「本物のクリスマス」を聖地・長崎からコンセプトに、市民クリスマスページェントと教会巡礼・馬小屋さるくを毎年実施している。昨年は12月18、26日に行われた。



市民クリスマスページェントは、JR長崎駅前

着やすく脱ぎやすい洋服を目指したユニバーサル・デザイン「尊厳のある服」を紹介するファッションショーが、2月27日(日)14時からカトリックセンターホールで開催される。紹介する服は、愛知の企業「(株)名美」での調査に基づいて開発したもので、普及に向け、教区福音化推進部が

「尊厳のある服」 ファッションショー

2月27日カトリックセンター

ン性を兼ね備えた、あくまでファッションとしての服を企画した「(株)名美」前野いずみさんのお話も予定している。

会。左に創刊号の記事紹介。名古屋へ異動する神父から饒別をそっくり学院の児童生徒の奨学金に寄付された記事。学院の運動会で綱引きの縄が切れ、両チームの選手が共倒れといった話題のほか、誕生欄に載った2人のその後の近況。現在の教会ニュース製作過程を紹介している。

創刊時の紙面は2ページ。2年近く毎週発行。担当司祭の異動など諸般の事情から半年余り休刊、1975年から毎月4ページで復刊している。

ジを使い、市民ボランティアが歌、楽器演奏、聖劇などで長崎ならではのクリスマス演出する企画(写真)。2006年から始まり年々出演者が増え、昨年は600人超を数えた。教会巡礼・馬小屋さるくは、教会や修道会の馬小屋飾りをバスで巡る小旅行。2005年から続き、今回初めて市外に足を延ばし、美しき西海路の教会を巡った。

依町教会ではこのためにクリスマスコンサートを開くなど各教会が協力的でこのさるくのリーダーは増加している。

「カトリック信者の前

野さんは、自分の仕事を

通して、神の御旨にあわ

せ、人々に奉仕したいと

思っている。教会が共に

歩めば、福音の響きを

奏でると信じて

いる。『さて、見なさい!』(紙崎新一

い!」(紙崎新一

神父・福音化推進部長)

と呼び掛けている。

入場無料。問い合わせ

は福音化推進部TEL095

184214450まで。

主の平安

五島中央会館

五島式典社(斎場)

代表取締役 ヨゼフ 浦 昭

24時間営業

五島市上津町1385番地1 TEL (0959) 74-5551

FAX (0959) 74-5552

五島市奈留町浦1899-1 TEL (0959) 64-3101

FAX (0959) 64-3102



主の平安

カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二

長崎市辻町7-18 TEL (095) 844-4011

24時間営業 FAX (095) 843-9896



白蟻調査無料・駆除工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子

(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号

電話 095-822-8436

FAX 095-822-8436

タンスの中身は入れたまま責任ある安全運送!!

(見積り無料・荷造り発送も致します)

貨物保険有り

・一般引越 ・小荷物

・荒ゴミ捨て ・遠距離

・学生引越 ・ピアノ運搬

水浦運送

シモン 水浦 幹雄

長崎市上野町12-3

TEL (095) 847-7151

844-1420

24時間営業・年中無休
受付時間 7:00~22:00

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社 西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 寛己

本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地

TEL (0956) 31-8268

(医) 外尾内科医院

院長 ベトロ 外尾 明利

〒857-1152 佐世保市黒髪町34-4

TEL 0956-33-5557